

★本会は、日本国憲法第九条(戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認)を守り、その平和主義の精神を広めることを目的とします。本会の目的に賛同する人なら、国籍・思想・信条を問わず、誰でも入会、ニュースの購読ができます。★



みやざき九条の会

ニュース No. 46

2020年 01月24日発行

〒880-0803宮崎市旭1-3-20 くすの樹ビル

TEL:0985(24)8820 FAX:0985(22)2937

口座番号 : 01760-4-131244

加入者名 : みやざき九条の会

年頭所感

瀬口黎生

戦争の世紀と言われた20世紀が過ぎてはや20年である。年頭にあたり「おめでとう」と言うのには些か躊躇される。人類は地球規模で戦争の惨禍を体験し、それを乗り越えようと決意していたはずだったから。

しかし、ここに来て再び状況は怪しくなっている。新自由主義経済の浸透は格差と貧困をまき散らして、富の偏在を生み、人口の大移動と生存の危機を出現させた。その中で超大国は覇権の野望をむき出しにし、経済成長が鈍化する中で、さらなる富を求めてしのぎを削っている。これが戦争の危機を再び生み出している実態ではなからうか。ダイアトス・ヘッドとジョーカーしか持たないトランプ大統領は世界最強の軍事力を背景にし、

嘘を振りまきながら、恐らく自らの政権内でも予測不能の行動で、混乱をまき散らしている。アメリカ・ファーストという主張も、実はすべてが11月の大統領選挙ファーストであろう。

日米安保条約を下敷きにし、トランプに隷従する安倍政権のもとでは、憲法の規定に拘わらず、戦争に巻き込まれる危険を心配するのは私一人であろうか。私は敗戦時の宮崎の状況を今でもはつきりと思い出す。小丸川の鉄橋は破壊されて日豊線は寸断され、宮崎の街は廃墟で、宮崎駅の前からは今の山形屋前の一つの小さな傾いたビル以外は全て焼け野原で、西陽のさすはるか彼方に宮崎大橋が望まれた。人々はその日の食糧をどのようにして手に入れるかだけが

関心事であつた。現況とこの思い出が私の中で交差する。

私たちはともすると、「私は大丈夫」「私の家族だけは大丈夫」という小さな幸せに逃げ込もうとしていないだろうか。そんなものが全て吹き飛んでしまうのが戦争なのだ。そこをもう一度かみしめたい。

〈目次〉

1. 年頭所感	瀬口黎生	1頁
2. 「戦争はよくない」一武者小路実篤の	〈詩〉南邦和	2頁
3. 〈短歌〉新年を迎えて	黒木余生坊	3頁
4. 風化させてはならない戦争の記憶	田原実	3頁
5. 思うこと	かいたろう	4頁
6. 寒の桜を見る会	峰 瑞枝	5頁
7. 〈詩〉双生児、無法地帯	横川澄夫	5頁
8. 地球環境省を創設せよ	萱嶋太郎	5頁
9. 小さな山の学校から その2	秋元ふき	6頁
10. 2019年みやざき九条の会例会・中野晃一講演会感想		7頁
11. 2019年度決算報告	村岡弘志	10頁
12. 大宮九条の会 新春のつどいのご案内		10頁

「戦争はよくない」

―武者小路実篤の〈詩〉

南 邦和

ここ数年、私は武者小路実篤という作家の周りを巡りめぐっている。日本文学史の上では記憶されている「文豪」の一人と目されているが、その「人と作品」についての現代人の関心は、すでに過去のものとなっている。

直接の動機は、一昨年（2018）創立百周年を迎えた〈新しき村〉（宮崎と埼玉に「二つの村」が現存している）についてのルポルタージュ風な評論「〈新しき村〉100年〜実篤の見果てぬ夢とその軌跡と行方」（鉦脈社刊）の取材・執筆のための「作家武者小路実篤」への急接近であった。

ここでは拙著について語るのが目的ではない。1885年（明治18）華族（子爵家）の家柄に生まれ、1976年（昭和51）に91歳でこの世を去った武者小路

実篤の、その生い立ちや思想的背景、人間的な苦悩を通じての「光と翳」を追いながら詩人・小説家・劇作家・思想家・画家・書家・俳優、そして事業家と、実に多面的な顔をもつ「稀有の人」の知られざる一面にスポットを当ててみたい。

実篤が、いわゆる「社会主義」に関心を持つようになるのは、少年期にその叔父勘解由小路資承（かでのこうじすけこと）（母の弟・子爵）からのトルストイへの傾倒に始まり、学習院高等部の時代にはすでに「平民新聞」の愛読者となり、幸徳秋水、堺利彦、大杉栄といった社会主義者やアナキストにシンパシーを抱いている。

1918年（大正7）に始まる〈新しき村〉の理念は「みんな仲良く」「人間らしく」「義務は平等に」そして「自分を生かす」という、まさに社会主義的な「理想社会」を目指すものであった。のちに実篤は戦争中の大政翼賛会体制のもとで日本文学報国会劇文学部長の要職に就き、また敗戦直後の1946年（昭和21）には貴族院議員（勅選議員）となり、公

職追放令G項の憂き目を見ることになる。その武者小路実篤が小牧近江らによるプロレタリア雑誌「種蒔く人」（大正10年創刊）に関わっていたことを知る人は少ない。その三号〈非軍事主義号〉（発行後ただちに発禁）に発表されたのが「戦争はよくない」の一編である。この時代としては大胆、率直な表現で、実篤らしいストレート（直球）な作品であり、一世紀を隔てても人々の胸に響く明快な〈反戦詩〉である。

〈詩〉

戦争はよくない

武者小路実篤

俺は殺されることが嫌いだから

人殺しに反対する、

従って戦争に反対する、

自分の殺されることの

好きな人間、

自分の愛するものの

殺されることのすきな人間、
かかる人間のみ戦争を賛美することがで
きる。

その他の人間は
戦争に反対する。

他人は殺されてもいいと云う人間は
自分は殺されてもいいと云う人間だ。

人間が人間を殺していいと云うことは
決してあり得ない。

だから自分は戦争に反対する。

戦争はよくないものだ。

このことを本当にしろないものよ、

お前は戦争で

殺されることを

甘受できるか。

想像力の弱いものよ。

戦争はよしなくならないものにせよ、

俺は戦争に反対する。

戦争をよきものとは断じて思うことは出
来ない

〈短歌〉新年を迎えて

黒木余生坊

初詣神社の筆で絵馬を書く「安倍九条の
改憲NO!」と

年明けの世論調査がお楽しみ安倍支持率
の下降や如何に

~~~~~

## 風化させてはならない戦争の記憶

田原 実

昨年の11月に宮崎市の市民プラザで  
「第6回空襲・戦争遺跡を考える九州・  
山口地区交流会」があり参加しました。  
この会で各地の戦争遺跡の詳細な調査・  
研究の報告がありました。戦時中の九州  
へのナーム弾攻撃、軍事工場があつた  
長崎での魚雷製造のことや宮崎からは、  
八紘一宇の塔や赤江の掩体壕・県内に残  
る戦争遺跡の紹介。鹿児島からは、掩体

壕を利用した公園整備や市から認定を受  
けた平和学習ガイドのことなど。どれも  
地道なフィールドワークを積み重ねた報  
告でした。

1945年8月15日、日本はポツダム宣言  
を受諾して連合国に降伏しました。15年  
にわたる戦争は、日本人の軍人軍属など  
の戦死80万人、民間人の国外での死亡30  
万人、国内での空襲等による死者50万人  
以上、合計310万人以上の犠牲をもたらし  
ました。そして、さきの戦争で多くの犠  
牲を払った日本は、世界にも稀な「戦争  
放棄」の理念を持つ憲法によって平和を  
築いてきました。

安部首相は、平成29年1月の第193回  
通常国会の施政方針演説で「未来を生き  
る世代のために、新しい国創りに挑戦す  
る。今こそ、未来への責任を果たすべき  
時であります。」と述べています。

過去の戦争を知り、戦争をくり返さ  
ない平和な社会を構築するために各地に  
残る戦争遺跡という負の遺産を保存・整  
備し伝承していくことは、平和な未来に  
つながるのではないかと思います。

かいたろう

前途多難を暗示する新年の幕開け

年明け早々、推理小説まがいの事件報道に驚かされた。ゴーン被告の逃亡劇である。日本の出入国管理の甘さを露呈した事件だ。マスコミをはじめ多くの人々が、どのような手段でどのようにして逃げるのができたのか推測するのに一所懸命のようだが、問題は国の主権を侵された重大事件の筈だ。なぜ逃げられるのか、どこにどのような隙があったのか検証してそこを塞ぐことが関係部署の最優先事項である。

2020年、最初に飛び込んできた国際ニュースは、米国によるイラン革命防衛隊ソレイマニ司令官殺害という恐ろしい報道だった。米国の言い分では「我が国（米国）の外交官と軍人を攻撃する計画を積極的に進めていた」（1月4日付朝日新聞）ので先制攻撃をしたそうだ（注1）。国際法上も米国の国内法でもこのようなことが許されるのだろうか、素人はま

ず考えた。当事者以外の国にいる人を、国外から遠隔操作で狙い撃ちできる現在の武力行使の恐ろしさを、改めて認識させられた。これ以上、拡大しないことを祈るばかりである。

（注1）その後、ネット情報では、ソレイマニは中東和平案を携えてイラクのバクダッド空港到着直後乗用車で移動中に米軍に狙われた（櫻井ジャーナル）、またソレイマニ司令官殺害、トランプは7カ月前に承認か（米露対峙時事）。

イラン問題は、2003年サダム・フセイン政権消滅、2011年リビアのカダフィー政権崩壊いずれも直接間接に米国の力によつてねじ伏せられたのに似た経過を辿っている。

イスラムとカトリックの争いは、十字軍前後からの宗教戦争のようにも受け止められるし、20世紀以降先進国と発展途上国の争いのようでもある。先進国同士の覇権争いもあるし、途上国内では敵対している先進国の代理戦争が仕組まれることも多い。

安倍さんは、令和元年11月20日に憲政史上最長の首相となった。新春の記者会

見てゴーン逃亡については何も触れなかった。米国とイランの危険な状況については「全ての関係者に緊張緩和のための外交努力を尽くすことを求める」（同日付同新聞）とコメントするに止めている。

自分が任命した大臣が何人辞職しようとも、「国民に選ばれた国会議員であるから、本人の口から説明されるでしょう」と任命責任を逃れ、モリ、カケ、サクラ問題も「今後とも円満な国会運営に努力したい」「国民の批判を真摯に受け止め、再発防止を徹底し、二度とこのようなことが起こらないようにする」、事柄によっては「知らぬ」「存ぜぬ」で押し通すものの、不祥事は続発しことある毎の謝罪と弁解の言葉は、二年この方全く同じものの繰り返しだ。証拠書類を改ざんし廃棄しても平気の平左。桜を見る会の名簿については、「廃棄したからわからない」「データの復旧は出来ない」と聞いている」と弁解にもならない言い訳をするばかりで、その焼却の記録さえもない。

法案審議に際しても、世論が厳しく形勢不利と見るや強行採決でゴリ押しする。

理不尽と思えても今のルールでは民主主義の手順を逸脱してはいない。

「無理ばかりを通して道理を引き込ませる」安倍政権をいつまで続けさせるのか、この辺で真剣に考えなければ民主主義が危ないと感じるのは私だけだろうか。

~~~~~

寒の桜を見る会

峰 瑞枝

暖冬だと予報された通りの冬の最中ではあるが、公園の桜の木の芽はまだ硬く、あのうつくしい姿への衣替えはもう少し待たなくてはならない。

これまで『桜』にまつわる話は、文学の中に見られる、妖しさや、その色・散り様から潔さとか、はかなさの例えに表されてきたのではなからうか。

その『桜』が、これほど汚されたことがあったらどうか。私は知らない。暮れ

冷え切った夕方に宮崎山形屋前に80人を超す人々が集まって、アベ政権のウソと金にまみれた『桜を見る会』に抗議の声を上げた。外気の冷たさとは相反して、参加者の内側は怒りと憤りに満ち熱くなつたと思う。

国会が解散してそれで『逃げ切った!』と表現した公明党幹部! 日本共産党の田村智子議員の質問に端を発した『桜を見る会』は、『桜を見る会追及本部』として立憲野党の結集というこれまでにない結果を生んだ。田村智子議員の最初の質問の時には大臣席で言い訳に終始していた安倍晋三首相は、あれから一度も席に戻らないままになっているという。

さらに事もあろうに自衛隊を、情報が錯綜し混乱深める中東に「桜の如く死んで奉公しろ!」と言わんばかりに派遣命令を発した。同日、安倍首相は私人の昭恵夫人を伴って、安全が保障された特定の中東へ旅立ち、金のばら撒きをやっている。私人である昭恵夫人は砂漠でラクダに乗って遊んでいる写真が送られてきた。

この間立憲野党の追求本部は、今日(1月14日)も『桜を見る会書類の行方』を追って、担当当局からのヒヤリングを行なっている。質問に答えようとしない官僚に業を煮やしながらも、粘り強く迫っている。この議員たちが追及する姿を見ていると、私たち国民はどんな人を選んだら自分たちの代弁者になってくれるのか明白ではないか!

国民を背に働く議員を支えるのは国民自身だということに気づく。明後日16日にも、『第23回ヒヤリング』が開催される。心して聴いていきたいと思う。

そしてこの宮崎でも週末には、『桜を見る会抗議集会』の第弾として、『桜・・・』はもちろんのこと、宮崎も他人事ではない『カジノを含む統合型リゾート事業 (IR) 汚職事件』『大学入試システムの混乱・差別発言』『自衛隊の中東派遣の不安』などの怒りや不安を出し合っていきたいと思う。

〈詩〉

双生児

横川澄夫

9条には双生児が居るといふ
25条「すべての国民は、健康で文化的な
最低限度の生活を営む権利を有する
国はすべての生活部面について、社会福
祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増
進に努めなければならない」である。

貧しい暮らしに生れ落ち、学校に行ける
かどうか

あげく学力が無いと蹴ちらされ

とどのつまり自己責任と切り捨てられ

こんな平和は糞喰らえ

全てぶち壊すへ戦争が欲しいと叫ぶ若者
ら

生存権を保障しない平和などあるものか

2月11日「歌とお話」9条「コンサート」

での問いかけであった

(二〇〇六・三・一七)

無法地帯

横川澄夫

アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、
ロシア、イタリア、日本・・・ 民主主
義国家群
アフガンを襲う

テロ支援国家だということです
ならずもの国家だということです
(えっ、どちらが?)

航空母艦、ミサイル艦、無人新兵器

じゅうたん爆撃、クラスター弾、特殊部
隊、海兵隊・・・寄つてたかつて

乾いた天地に冬が来ています

凍死、餓死で倒れています

声高な「民主主義防衛!」

裏腹な 傀儡政権づくりの大国の算段

武力で民主国家が出来ますか?

アフガンの死者は数えられることもあり
ません

(二〇〇一・一一)

地球環境改善省を創設せよ

萱嶋太郎

台風19号(2019.10.12)の前日、気象庁
の園田長官は、1958年に起きた伊豆半島
の狩野川台風級と予測し、その後、落ち
着いた段階で検証すると述べた。

だが、今回の大災害を過去の事例と比
較するにはあまりにも激甚で、毎年、今
までに経験のない大災害があり、従来方
式の対策では対応できなくなっている。

災害の規模や影響も、人命にとどまら
ず、居住地復旧への不安、新幹線の大幅
な運行減も含む交通の麻痺、観光の減退
など、社会生活や産業活動全般にも及ぶ。

今や、国民の生命・財産を侵害する最
大の原因は、軍による攻防や戦争ではな
く、引き返せなくなるほどに進展しかね
ない地球の灼熱地獄化の阻止であり、異
常気象での大水害・山火事等を阻止する
仕組みが緊要で、大被害国日本は、世界
の気象を正常に戻す行動の先駆者の役割
を担う立場にあるのではないか。

地球環境改善省創設で未来を開く

そこで、防衛省は、地球環境の改善に関わる環境省、海上保安庁、国土交通省、消防庁などの関係部署も組み込み、「地球環境改善省（略称；地改省）」に改編し、①気候変動を抑制する植樹、緑化の緑成隊、②災害を救援する災害救援隊、③国境、沿岸の監視をする国境警備隊に改編するのがよい。

大水害は、酸素と二酸化炭素の割合が崩れ、熱帯海面上の上空に大量の水蒸気が蓄積されて生じる。そこで、二酸化炭素の排出を吸収する光合成を促進する、インドネシアやアマゾンなどの熱帯地域での植林が必要となる。

小さな山の学校から その2

秋元ふき

小さな山の学校にも、九条なくしたい流れが波及していると感ずることがある。あれは今年度が始まって間もないころ、校長さんから朝イチで呼び出しを食らった。宮日の「若い目」欄に載ったK子の投書が気に入らなかつたらしい。K子は

「日本は使い捨てプラスチックの量が多いのに、対策をせず結局は野放しになつてしまつています。外国を見習うべきだと思ひます」と書いていた。

校長さんは言う。「これだと政府を批判しているように読めるではないか。新聞社に送る前に私に見せてくれないか。新し」。K子は、日本はプラゴミ問題に立ち向かうべきだという意見を述べたのだから、批判するのは当然だ。どう書くべきだったのでしょうか？と問うと、「例えば『対策が不十分なのではないでしょうか』とかですよ」とのこと。

子どもの率直な意見を骨抜きにして、いやらしい大人の物言いに書き換えさせると、よくもまあ、国語の教師に向かつて言えたものだと思う。

漢字の間違いや文法上の誤りならともかく、子どもの意見は尊重すべきでは？と言つてみたが、「次から必ず起案するように」と命じられた。

「起案」？

そう言えば、二〇一九年の「嫌だったこと」ナンバー1が「起案」だった。

六月の生徒総会の最後で集会アピールを採択したら「起案」してなかつたと怒られた。「ボランティア活動に自覚を」

という素朴な内容だったのに。ついでに、生徒総会の議案も「起案」してないと指摘されて面喰らつてしまった。これまで三十年間、生徒総会の議案を起案せよと言われたことなど一度もなかつたから。

当然、各委員会からの提案は担当教員が見ているし、「学校への要望」などは前もって職員会に出して検討してもらい、会計報告には教頭さんの監査をいただいている。それに、総会議案は事前に全職員にも配った。これ以上何を前もって「起案」する必要があるのか。生徒総会で決まったことを職員が受け止めて、活動を見守り必要ならば助言をする：それがこれまでの常識ではなかつたか？

昨年夏休みの「コンプライアンス研修」のプレゼンに、学校が管理すべき事項として「作文」という文字があつたのにも驚いた。と同時に、県下一斉に検閲を奨励し始めたのか？という危惧を抱いた。

しかし、思えばこういう管理主義は私が教職に就いた時分からあつた。当時の同僚（生徒会担当）が生徒会のリーダーたちに、「自分で判断するなあつ！」と怒鳴つていたことを思い出す。

こう考えてくると、子どもたちの自発的な言葉を守り、自由な活動ができるよ

うに学校環境を整えることも、ヒラ教員としての重要な闘いなのだという気すらしてくる。

環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんの国、スウェーデンの教育担当大臣は、彼女が学校を休んで抗議の座り込みをしていることを認める発言をされているそう。何という懐の広さよ！

私は今、密かに「没」になった作文を蓄え、「表現の不自由作文集」を編もうと企んでいる。

中野晃一講演会 参加者感想

—2019/9/29みやぎ九条の会例会

「誰もが自分らしく暮らせる明日へ 私たちが変える政治」、宮崎市民プラザ4階ギャラリー1&2で開催されました。参加人数は206名でたいへん盛会でした。

現政権の憲法破壊、とりわけ戦争する国への乱暴な政治から、憲法が生きる政治に変えるために、集会やデモだけではなく、立憲野党と市民が協力して国政選挙で政権与党に勝利しようと「市民連合」が結成されました。

この間の市民運動に理論的にも実践的にもかわってこられたお一人の中野先生を迎える講演会は、これからの私たちの市民運動にとって大変有意義なものとなりました。



＜感想文＞

■日本国憲法の他の国の憲法との比較はおもしろかった。短く、ごく基本的な大切なことだけが書いてあるので、ますます改憲反対に意が強くなった。「国民投票」は絶対にやらせてはいけない。

70代

■とてもわかりやすくてぼーとしていて私に政治への関心を失わないようにしてくださいます。

先生の切り口はとても新鮮です。まず家族に今晩話します。50代

■自分が思ってもいないようなすばらしいお話でいろいろ考えさせられました。自分もいろいろ行動していきたい。70代

■憲法の知らない部分がよく理解できた。面白

かった。孫のためにも頑張りたい。(60代)

■参院選の政治状況を極めて具体的・説得的に話していただき深く考えさせられ、納得できるものがありました。これを元氣のもとにして今後微力を尽くしたい。楽しい講演会でした。70代

■ものすごくわかりやすかった。一市民として本当に九条は守りたい。70代

■次世代のため改憲反対をと参加しました。何となく改憲でなく憲法をよく勉強しメディア情報だけで判断しないよう新しいことを知ることができ意味深い講演でした。70代

■(国民民主の) 玉木を切れない理由がよく分かった。

■視界が開けた感じ。ぼんやりした知識では活動していけないと改めて思いました。先生のようにおもしろく話せる余裕ができるくらい勉強をがんばろうと思います。どのように伝えたらよいのかとの質問に対するお答えは、胸に刺さり、涙ができました。40代

■話はわかりやすかった。自分にできること、種を蒔く↓そこから芽が出るかわからないが、という話が印象的。60代

■中野氏の話ははじめて聴いた。多くの人に聴いてほしい。テレビではなかなか九条の話は聞けない。

■やはり「9条」は変えたら大変だと痛感した。「9条」が崩れると後のすべての憲法の

条文が失われる恐れがあることを考えさせられた。特に触れられなかったが、愛知トリエンナーレで「表現の自由」が喪失するのにはゾツとするものがあつた。確かに「このままではいけない」と考えている。後は「伝え方」が重要なのだと思つた。「護憲」は「大人の責任」―「暮らし」の中で伝えていけるだろうか―そんなことを感じた。45歳

■大切なのはダメなものダメ、おかしいこととおかしいと声を上げ続けたいといけな
いと改めて強く思いました。50代

■全体的にもこの見方、考え方をわかりやすく、話され大変参考になつた。60代

■中野先生の話の一つひとつにうんうんとうなずく。戦略的に国民を無知にして自分たちの好きにしようとしている政治のあり様の話には目からウロコでした。世の中の動きを知るため、主に朝日新聞、NHKニュースから情報を得ていますが、なんでこんな論調?と思うときがあります。そんな組織の中でも頑張っている人たちに「良かった」との声を届ける必要があると言われましたが、そのことくらいは私でもできることの一つだと思ひました。60代

■憲法―9条―わからない―少しわかつた―話がかうまいおもしろい。75歳

■今の時代空気はファシズムのニオイがプ

ンとします。現状打破のスローガンとして「ファシズムを許すな!」70代

■リアルにすぐ使える言葉をたくさん教えていただきました。まさに実践的で頭の整理にも役立ちました。60代

■「火種を残す」をテーマに日々を送っていますが、今日の最後のお話で元気ができました。再任用で教壇に立つことの意義を再認識できました。生徒にも同僚とも地域の人々とも平和を語つて火種を残したい。60代

■シールズの若者が生まれた背景に共通に「平和教育」があつたというお話に感銘を受けました。種をまく仕事もう少し頑張ろうと思ひました。やるぞうーやるぞうー!50代

■改憲勢力と闘う上で力をもらつた。80代

■シールズのお話がとても感動的で勇気ができました。あきらめず、粘り強く、憲法を守り抜くために日々の暮らしの中で伝えていきたい。先生の本を読んで勉強します。70代

■ゆるやかな発想をもたれている中野さんの話は目が覚めるようだ。なぜ安倍の支持率が下がらないのかと思つていましたが、そういうムードを作り上げているものがあるのだと知りしました。こわい、こわい。半分ユーモアをまじえての明確な論調に引き込まれました。あまり危機感をもたない人を巻き込む方法を真剣に考えたい。最後の「平和をかたる、常

に見せる姿勢がやがて芽が出る」という話には感動させられました。60代

■世界各国の「憲法」との比較で「日本国憲法」の特徴がよく理解できました。お話は実になめらかで明快な論理に引き付けられました。改憲派のあざとさと策謀の手法が具体的に説明され、野党統一の必要性を痛感した。80代

■先生の話は今まで自分が知つたのとは違つ切り口で聴けて良かった。改憲について何も考えていない人にどう伝えるか、考えても答えがでませんでした。ヒントを得られたので、活用してみたいと思ひます。若い人たちの意識事情が分かつてよかったです。40代

■市民連合を支えておられる先生のお話を直接うかがえてよかったです。若い人とのつながりの話、大変良かったです。

■改憲勢力とたたかう上で力をいただいた。参加者が多かつた。・感動! 80代

■憲法や平和の問題に関する講演会は、毎月・毎週のようにいつも宮崎のどこかで開かれています。私は参加する度に、勉強になり感動を受け勇気をもらつています。今回の中野講演会も素晴らしかつた。重要なことは、このよう催しにこれまで参加してこなかつた人を一人でも多く誘うことではないだろうか。今後努力したいと思ひます。70代

みやぎ九条の会 2019年度(2019年1～12月)決算

2019年度会計は下記のとおりで、収入支出がほぼトントンになりました。今年度は多くの方がカンパを寄せていただきました(127人 219,000円) ことが特徴といえますが、そのおかげで支出が多かったにもかかわらず、基本的に赤字を出さずにすみました。ありがとうございました。

新年度も憲法9条改悪が狙われる緊迫した情勢が継続しますが、前年度に続き「県民宣伝や会議参加並びに協力団体(戦争法の廃止を求める宮崎連絡会、市民アクション、反原発団体等)との協力を積極的に行う。そのためにこれまでの繰越金も一定使用する」という積極的な会計方針にしたいと考えています。(会計担当 村岡弘広)

◎年会費及びカンパのお願い

今年度の年会費(千円)の納入をお願いします。納入方法は、①同封の振込用紙で郵便局で振込む(振込手数料、窓口で203円、ATM経由で152円)、②振込用紙使わずにATMで送金は手数料無料(月1回制限)、

③何かの機会に、当会関係者に直接手渡しでもかまいません。

【収入】	円	
繰越金	593,221	
会費	189,000	189人分
カンパ	219,000	127人分
雑収入	19,402	南邦和講演会益金、利子
合計	1,020,623	
【支出】	円	
講演会費用	33,321	中野晃一講演会不足金
ニュース費用	148,359	ニュース印刷送付
事務経費	13,530	文具、切手、ロッカー代等
振替料金	13,246	郵便振替料金
会議費	73,135	首長九条の会旅費、5、3集会等
広告費	56,248	新聞広告、折り込み等
署名・備品費	56,439	3000万署名チラシ、横断幕等
他団体協力費	65,000	戦争法連絡会、戦争展、医療生協まつり広告
合計	459,278	
【次年度繰越金】	561,345	円

「大宮九条の会」新春のつどい案内

日時 2月1日(土) 午後1時半～
会場 花ヶ島公民館

第1部 記念講演・南邦和さん

「新春に思うこと」 ①天皇代替り②安倍首相の『桜を見る会』③GSSOMIAと日韓関係

第2部 落語で初笑い

・可愛家愛可さんの落語で安倍自公政権を吹き飛ばそう！ 演目は「雛罌(ひなづば)」です。

第3部 乾杯して懇談&歌

○平和が好きな人はどなた様でも参加は自由で、戦争好きはお断りです。

○当日運営会費として、千円程度の募金をお願いします。

○お好みの飲み物やお飲みなどの持参歓迎です。

連絡先 黒木利忠 (TEL 23-6460)